

開催月日 : 2020年 2月 17日

2019年度第2回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

施設長	ホーム次長兼センター長	支援センター長	ホーム係長	通所係長	記録

時間	am / pm 10:00	am / pm 11:00	場所	かんだ連雀 地下会議室
議長	尾崎 正紀		書記	福本 美希
出席者	○千代田区高齢介護課介護事業指定係: ●●●●様			
	○千代田区社会福祉協議会: ●●●●●様			
	○千代田区高齢者あんしんセンター: 川島典子(神田地区)			
	○千代田区かがやきプラザ: 常川知美			
	○医療機関: ●●●●様(三楽病院)			
	○知見を有する物: ●●●●●様、山田真理			
	○地域住民の代表者: ●●●●●様、●●●●●様			
	○指定事業者 かんだ連雀いつでもサポートサービス: 峯俊美、尾崎正紀、福本美希			
議題				
確認事項	議長			
	出席者			
会議内容	①開会の挨拶 かんだ連雀: 峯俊美			
	②取り組み事例発表 かんだ連雀いつでもサポートサービス: 福本美希			
	③ご出席者皆様よりご意見・講評			
	④閉会の挨拶 かんだ連雀: 峯俊美			
保留事項				

詳 細
①開会の挨拶
<p>かんだ連雀:峯俊美</p> <p>○今年度2回目になります定期巡回随時対応型サービス連携推進会議を開催させていただきます。これは国の定めで年2回、我々が行っているサービスの内容を事例を発表させていただきながら、益々この定期巡回が発展、繁栄していくような仕組みを作っていく趣旨をもって開催させて頂いております。</p>
②取り組み事例発表
<p>かんだ連雀いつでもサポートサービス:福本美希</p> <p>○老人性うつのご利用者との関りについて発表する。認知症と間違われやすいことや、症状、原因、治療などについて説明する。2019年3月から利用を開始された女性、要介護2、独居の方との関りを事例にまとめ発表する。初期と現在のサービス内容の比較や、訪問看護との連携、個別の関り方、現在の状態について福本から発表する。その中で担当ケアマネジャーである山田からもコメントをもらう。</p>
●山田真理:知見を有する者
<p>○この方のご主人が末期がんで、亡くなる前の2週間程ご主人の支援をさせて頂いていた関係で関わらせていただくようになりました。1年間家を離れていた為、ご本人は不安が強くありました。以前は理髪店をご主人と頑張って経営し、全て取り仕切っていたが、1年間普通の生活を送れずにいたのに退院後、どうやって一人で暮らしていくのか、何が不安かも分からない状態でした。家で暮らせる自信がないと本人から訴えがありましたが、私もご主人との関りが短く、どのように暮らしていたか生活が見えず正直困りました。まずお風呂が困るという事で、出かけるきっかけにもなる銭湯型デイサービスを紹介しました。またヘルパーさんが週2回の送り出しだけでは生活が見えないと思い、生活リズムを見てもらい、その中で何に困るか、何ができるかを含めた生活の全般を一緒に模索していく気持ちで定期巡回をお願いした経緯です。元々家事がお好きで得意な方だったので、何が出来るか見極めて欲しいというスタートでした。</p>
③ご出席者皆様よりご意見・講評
● ●●●●●様:千代田区社会福祉協議会
<p>○この方はお裁縫やお料理など色々やっていた方とのことでしたが、現在はお弁当ですが一緒にお食事を作ることはなかったのでしょうか？</p> <p>(かんだ連雀:尾崎)</p> <p>○そうですね。ご飯が硬くて食べれない、お粥にしようかどうしようかと迷われている時に、ご本人の中ではお水を加えて温め直せば食べられるんじゃないかといったアイデアをお持ちだったので、一緒にやってみました。また実は冷蔵庫を開けると、最近作ったであろうお惣菜がありました。ご本人に聞いてみたところ、お正月に娘様が帰省されるのでおせち料理をなんとか自分で作りたいと、全部は作れないができるものだけでも作ってみただと残りを見せて下さりました。否定妄想が強いので、出来ない出来ないと言っているが、意外と頑張っていらっしゃることが見受けられます。</p>
●常川知美:千代田区かがやきプラザ
<p>○私も介護老人保健施設にいたことがあります。上げ膳据え膳で何でもやってもらえる状況が続くと、帰った時にどうしていいかわからなくなるし、今まで一人暮らしもしていない方が急に一人になると</p>

というのは漠然とした不安だったと思います。定期巡回を生活リハビリの一環として上手く利用した例だと勉強になりました。老人性うつということですが、高齢者の方は夕方症候群や、薬の使い分けも難しいと思います。主治医によっては短時間型の薬を処方し、薬が切れたのが分かる場合もあります。そういった相談を在宅でも薬剤師にすることが広まっているので、上手く連携してもいいのかなと思いました。ヘルパー対応の共通化についても訪問看護から指導が入っているので、とてもいいと思いました。本人の状態も少しずつ変化していく中で、今何ができて何ができないか、自分の中でも分かってくるようになった時に、変化に応じたサービスの組み立て方というのが上手く入った事例かと感じました。

(かんだ連雀:尾崎)

○ありがとうございます。お薬に関しては、精神科の先生が入退院を繰り返す中で変わり、お薬の内容もその時々で若干変わっています。ご本人から屯用のお薬を飲みたいとの訴えがあったと事例でもお伝えしましたが、なるべく使わないよう声掛けで対応させて頂きました。また一般の薬だけでなく、漢方薬も出してもらいご本人負担にならないような形の薬が選べるようになってきたところです。

●●●●●様:地域住民の代表者

○私たちはご主人の具合が悪く時から声掛けをしてました。まだご主人がいらした時は対応も柔らかく出来ていたんです。ご主人が亡くなってから急に笑顔がなくなり、食欲もなくなり、みるみるうちに変わっていくのが分かる程でした。ふれあいサロンをやっているためお誘いするんですが、「行こうかな」と返事はするも段々と遠ざかっていき、シャッターも開かなくなって、挨拶もできなくなって、そのうちにどこかの病院に入ったみたいとご近所から伺いました。また帰ってきて声掛けしても、その声掛けが難しくなってきました。ご本人から「声をかけられるのは嫌だ」と言われて、難しいんだなあと思いました。ここ2、3日前にお見掛けした時は、ちょっと変わってきたなと感じました。見守りも大切ですが、見守り過ぎるのも多分いけないのかなと思います、難しいですね。

●常川知美:千代田区かがやきプラザ

○次の課題は対人関係ですかね。

(かんだ連雀:尾崎)

○そうですね。例えばですが、買い物と一緒にいった際も前からご近所で顔見知りの方が見えると、この道は辞めようと思ってしまったり、電話でお昼のお誘いをもらっても「気が進まないわ…」と言ったりします。ご本人は全く行きたくない訳ではないが、どうやって受け止めていいのか心の準備ができていないようで、いざ行くとなっても、何を着て行こうと迷ってしまい、色んなことが気になってしまいます。外に出てみようという気持ちも見えてきたので、暖かくなって春になったら、どんどんお誘いいただけたらなと思います。

●峯俊美:かんだ連雀

○次のステップとして定期巡回で生活に対してどんな取り組みを考えているのか、また一つの事に対して統一した対応とは具体的に何に対して、どんなことをしたか？

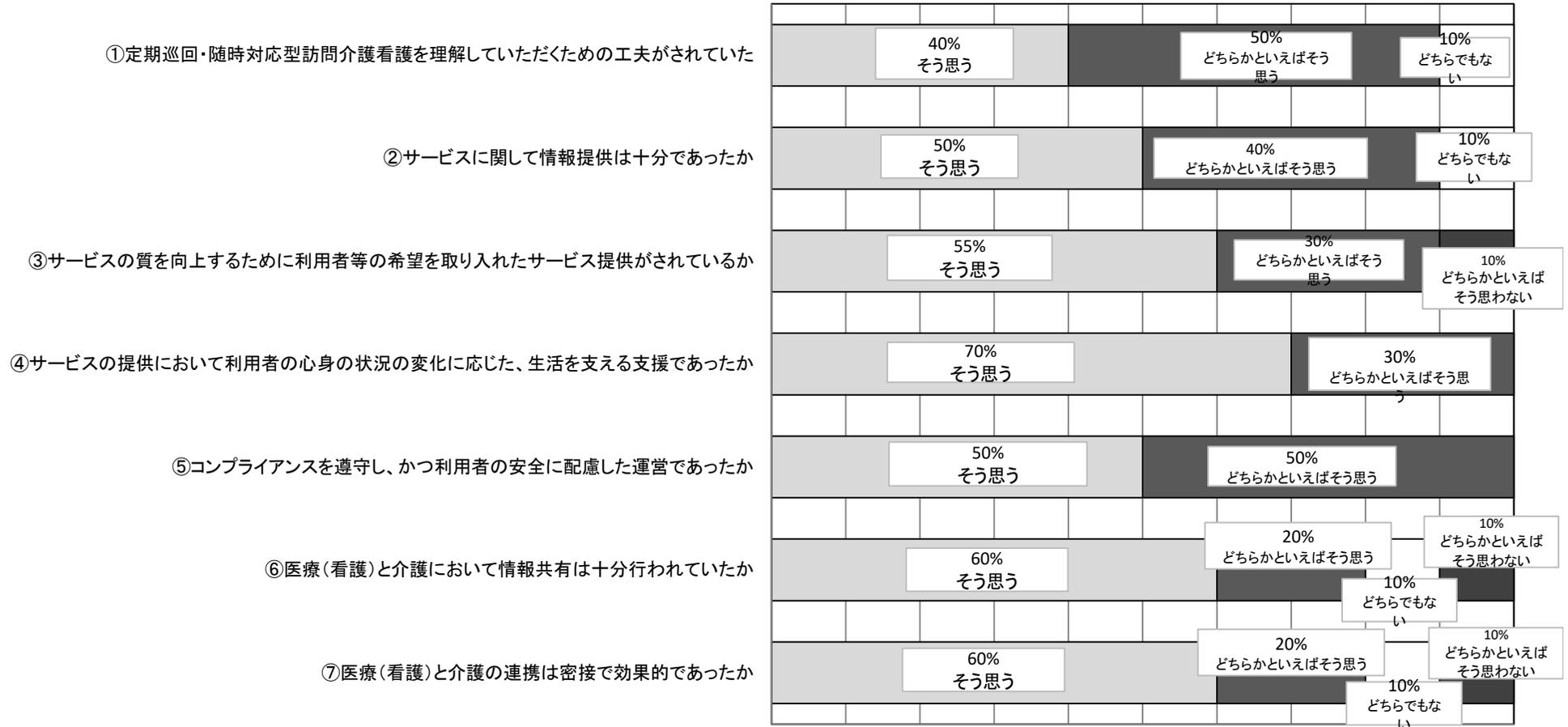
(かんだ連雀:福本)

○統一した対応について、薬の不安に対しては、どのヘルパーもホットミルクを出すということで統一しました。不安な時はホットミルク、薬を飲みたい時もホットミルクと続けたことで、始めは洪々ではありましたが、話しているうちにこれで様子を見てみようかなと落ち着くようになりました。ホットミルクを飲んで、ヘルパーとお話しできたから大丈夫になってもらえるよう統一していきました。今後も不安は出てくると思われるので、そういった時は同様な統一した対応をしていくようにと訪問看護からアドバイスをもらいました。

(かんだ連雀:尾崎)
○あとは今まで買い物や外に出て行くことをメインに取り組んだのですが、お一人でも買い物に行けるようになってきたので、次はもう少し生活の中に入っていけるよう週間スケジュールを組んで行こうと思っています。掃除もご本人で少しはできていますが、掃除の日を決めて一緒にやりませんかと声をかけることで今日は洗濯の日、今日は階段掃除の日など、本人と考えていけたらと思います。
●●●●●様:千代田区高齢介護課介護事業指定係
○一つ伺いたいののですが、老人性うつを発症しているご利用者はこの方だけでしょうか？
(かんだ連雀:尾崎)
○他にもいらっしゃいます。今回取り上げさせて頂いた方は、老人性うつの症状ほとんどが当てはまっているので、事例として一番分かりやすいと思い、取り上げさせて頂きました。
●峯俊美:かんだ連雀
○対人関係にもう少し光が見えたところで、小林さんや町会と一緒に訪問してみるのもいいかもしれませんね。
(かんだ連雀:尾崎)
○複数のトラブルを抱えていると混乱してしまいます。なので一つずつ解消して行って、問題を単純化していくことで、本人も何に困っているか考えやすくなります。考える力はお持ちなので、答えを出すのではなくゆっくり考えてもらうきっかけを我々が提案していくようにすると、ご本人の中でこれは娘に頼む、これは古くなったから買い替えるなど、気分の切り替えも徐々にできるようになってきました。
●●●●●様:地域住民の代表者
○とっても几帳面な方なんですよ。それもあって、なかなか中に入れないというのがありました。お料理は本当に上手で、以前は大鍋で差入れをしてくれたんです。それがいつも有難くて、頼むと何でもやって下さる方で、そういう自慢はたくさんあるのに、ご主人が亡くなったことで自分のやる事が無くなったと思ってしまったのだと思います。長い目で私たちも付き合っていきたいと思っています。
(かんだ連雀:尾崎)
○そうですね、そんな形で焦らずに関わっていけたらいいなと思います。
④閉会の挨拶
かんだ連雀:峯俊美
○定期巡回が5、6年目にあたって、より生活に密着していこうと思っています。外を歩けば運動になりますが、外を歩く意味がどこにあるのか、生活をする上で外に行くことにどのように繋がっていくのか。生活するところからみると多角的に物事が見えてくるようになるかと思うので、リハビリのために歩きましょうという単純なことではなくて、生活を続ける為の方法として外に行きましょうとか、お料理をしていたのなら一緒に料理しましょうとか、そういう形で仕組みを作っていければ、それが定期巡回だからこそ出来る事かと思っています。

2019年度 8月 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 かんだ連雀いつでもサポートサービス 事業評価結果

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



⑧ご意見、ご要望など：情報のリストはきちんとされていたが、説明がもう少し詳しくされていると良かったと思う。
 実際のケースについて話し合いがもてたことは良かったと感じました。定期巡回と訪問介護の違いなど改めて知りました。ADL、モニタリング、アセスメントなどの専門用語は地域の方には優しい表現がいいと思いました。
 地域から参加されているメンバーにも分かりやすい状態でグループワークを設定する工夫が必要かと思いました。